

電気通信大学 平成19年度シラバス

授業科目名	Academic Spoken English II		
英文授業科目名	Academic Spoken English II		
開講年度	2007年度	開講年次	1年次
開講学期	後学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	1
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化基礎科目 I		
開講学科・専攻	情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	Damian Lucantonio		
居室	東1-611		

公開E-Mail	授業関連Webページ
damian@bunka.uec.ac.jp	

【主題および達成目標】

Goals:

1. To develop discussion skills (for example, to give opinions on current topics).
2. To develop critical thinking skills (for example, to give good reasons and to give good examples to support your opinion).

【前もって履修しておくべき科目】

この科目を履修するために、前もって履修しておくことが必須の科目を記述してください。必須のものがない場合は、「なし」と明記してください。

元来この項目は、ここに挙げた科目の単位を未取得の学生は、当該授業科目の履修が無理であることを意味していますが、厳格な運用には、未取得学生の措置、留年生の増大の可能性、等の問題があり、この項目の運用法については教育委員会での今後の課題としています。本年度は従来通り、学生にこの科目の履修に不可欠な知識・能力を明示するための記述としてお書きください。

【前もって履修しておくことが望ましい科目】

上記の「履修しておくべき」程ではないが、この科目を履修するために、前もって履修しておくことが望ましい科目を記述してください。

【教科書等】

(例)  
教科書：

## 電気通信大学 平成19年度シラバス

参考書：授業内容の理解に役立つ参考書がある場合、参考書も記述してください。

### 【授業内容とその進め方】

必須項目。

注1：授業内容と、授業の進め方は、学生がわかるようになっていれば、必ずしも各回ごとに分離して記述する必要はありません。

注2：下記の例2において、第N回は第N週を意味するものではありません。学生が回を追ってどのような内容が授業されるかがわかり、それを見て予習などができるようにすることが目的なので、学生が予め授業内容がわかるならば（例1）のように包括的な説明と主要なトピックスを示す方法もあります。

（例1）

(a) 授業内容

この授業では、～の説明からスタ

### 【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

必須項目。

注1：評価方法は、学生が自分の成績評価を確認できるように、（%による表示は必須ではありませんが）極力具体的に示してください。

注2：成績評価の公正さを期するためにも、必ず評価基準を記述してください。評価基準とは、少なくとも単位取得に必要なレベル（可と不可の区別を示す基準）を意味します。より上位のレベルの基準は、必要ならば記述してください。

注3：同一科目を複数の教官が担当する場合、不公平が生じないように、この項目の書き方については、事前に担当者間で十分にご相談の上、記入してくだ

### 【オフィスアワー：授業相談】

必須項目。

授業内容の理解促進等のために、授業時間外で、学生の質問・相談に応じる時間帯等について記述してください。

（例1）適宜相談に応じるが、電話などで事前にアポイントを取ること。

（例2）水曜日 12:00～14:00

（例3）特に設けない。質問等は電子メールで受け付ける。

### 【学生へのメッセージ】

（例）

「もの作り」にたずさわる人にとっては勿論のこと、たとえハードウェアを扱わなくてもシステムの動作原理を理解し、発展させるためには、電子回路の基本を十分理解している必要がある。授業中に一つずつしっかり理解していけば、難しい内容ではない。

電気通信大学 平成19年度シラバス

【その他】